



白沙村の景色

ここがどうやら村の中心らしい。小さいが広場になっているし、大きな楼閣がある。この周辺に商店が集まっている。その中には露天で手造りの工芸品を露天で並べている店もあった。

藍染めの布を展示している店があったので、入ってみた。店の奥に小さな規模の工房があった。農村の野良着は殆どが藍染め品なので各所に染め場がある。



実用品というより装飾に使うお土産用が多い。店の前に英文の説明板があった。中には日本文も書かれていた。ここまで来る日本の観光客もいるらしい。

前述の周城に比べて規模は小さい。暖簾やテーブル掛けらしいものが殆どでデザインも統一性がない。花や兔といった親しみやすいものが中心になっていた。



東河で見た物干し柱がある。横棒が通してあるが使っている様子はない。染めた布はロープを使って干している。もう一つこの物干し柱のある所を見た。中庭にテーブルを置いた茶館に備えてあった。



これも田舎らしさを出す飾りとして使われている様だ。或は時節外れなのかもしれない。庭で広げて乾燥させている光景は見かけたが、この櫓で乾かしている光景は見なかった。

この屋敷の屋根の中央に突起の様なものが付いていた。注意して見ると、他にも同じような屋根がある。ガイドの話ではこれは魔除けの猫で納西族の風習の一つだそうだ。イ族では獅子が屋根に魔除けとして置かれていた。ここは猫らしい。

成る程、穀類を狙うネズミには見たこともない獅子より猫の方が、睨みが効くのだろうと変な所で納得させられた。



商店の中には他では見かけなかった造りの店があった。上の二つは印象屋と食堂だが表戸が格子になっていて透明なガラスが入っている。通常左の食堂のように吹き抜けになっているのだが、こういう造りは珍しい。雪山に近く、吹き降ろしで寒い場所なのかもしれない。

右の様な店もあった。水瓶としては小さい。園芸用の鉢だろう。素焼きの素朴なものだ。店先に並べてあるだけで店の大きな看板もない。地元の人が知っていればそれでよい。そんな構えである。

